

ひがしふちゅうえんぺいどうぐん
東府中掩蔽壕群

所在地：石岡市八軒台 3166 番地
調査期間：令和8年4月1日～令和8年9月30日
調査面積：8,464 m²
委託者：茨城県警本部
調査原因：石岡警察署建設工事
調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（石岡中央事務所）
Tel: 029-225-6587 https://www.ibaraki-maibun.org



HP



X

遺跡の概要

東府中掩蔽壕群は、石岡市の南東部に位置し恋瀬川と園部川に挟まれた標高 27m の台地上に立地しています。

東府中掩蔽壕群は、太平洋戦争の末期の 1944 ～ 1945 年頃に石岡海軍航空基地の東部一帯に誘導路とともに 30 基以上が造営されました。その分布範囲は南北 2 km、東西方向 1 km に及びます。調査中の掩蔽壕は東府中 3 号掩蔽壕と呼ばれています。調査区周辺は米軍の記録によると 1945 年 8 月 13 日に機銃掃射による攻撃を受けています。



出典：国土地理院ウェブサイト 地図・空中写真閲覧サービス
空中写真（整理番号 USA コース番号 R519 写真番号 44）を加工して作成
石岡海軍航空基地と東府中 3 号掩蔽壕



東府中 3 号掩蔽壕全景（西から）

調査成果

確認した遺構は、掩蔽壕 1 基と 2 条の誘導路、3 基の塚です。

掩蔽壕は南北方向に走る第 1 号誘導路跡の西側に面して開口しています。規模は東西約 35m、南北約 35m で、土堤部（盛土）と格納部で構成されています。平面形は一般的に「C」字型と呼ばれているものです。土堤部は上幅約 0.3m ～ 0.6m、下幅約 7m ～ 8m で格納部底面からの高さは約 2.4m、当時の地表面からは 1.8m の高さで盛土をしています。土堤部の北側から西側にかけて



この資料は調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。
引用・掲載はご遠慮願います。

では基部と盛土を確認しましたが、南側は基部のみの確認にとどまりました。格納部は土堤部の内側に位置し、平面形は東西約 15m、南北約 15m です。底面は当時の地表面から 0.6m 程掘削しており、掘削されたローム層の上面や黒色土の上面は硬化しています。また、土堤部の外側に沿って、上幅約 3m ～ 6m、下幅約 2m ～ 5m、深さ 0.8m ～ 1m の周掘を確認しました。土堤部を構築するための土取りの痕跡と考えられます。

1945 年 8 月 13 日の米軍機による航空作戦報告写真には、本掩蔽壕がすでに爆撃をうけて穴が多数空いたかのように見える様子が写りこんでいます。実際の発掘調査では、爆撃の跡は見られないことから、あたかも爆撃を受けたかの様な偽装が施されていた可能性があります。

第 1 号誘導路は長さ約 80m、幅約 12m、第 2 号誘導路は長さ約 90m、幅約 17m で、いずれも両側に幅約 50cm の側溝を伴っています。それぞれの誘導路の側溝は埋め戻されていました。

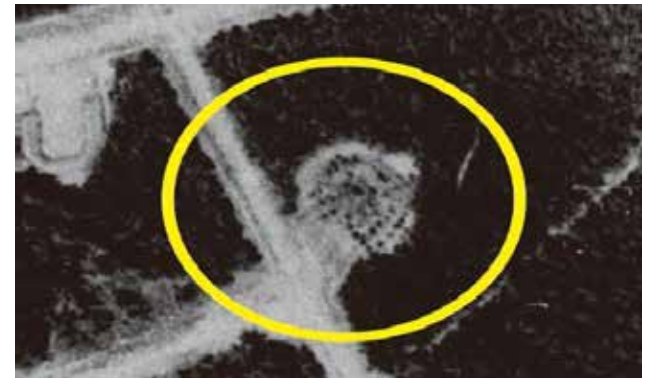
塚は掩蔽壕の見張り台の可能性を視野に入れつつ調査を進めました。「延宝庚申年」（1680 年）と刻まれた石碑が出土したことから、二十三夜供養塔として作られた近世の塚と考えられます。

これらから、当遺跡は太平洋戦争末期の石岡市の様子を伝える遺跡であることが分かります。

出土遺物

調査区北部の遺構確認面から機銃弾と思われる遺物が出土しました。小美玉市玉里資料館の「海軍航空隊の記憶－百里原海軍航空隊から予科練まで」に掲載された「特別寄稿 百里原海軍飛行場掩体壕出土機銃弾について」（山本達也氏）の米軍 12.7mm 機銃弾一覧を参考にすると、M2 普通弾ないし、M2 徹甲弾ではないかと考えられます。近隣の方の「戦後、調査区一帯から銃弾を拾い、古物商へ持って行った」というお話からも、戦時中の姿を現実味をもって想像することができます。

第 2 号誘導路の側溝からは金属製品が出土しました。用途や詳細は不明ですが、独特の形状をしています。「航空機の部品ではないのか」といった想像を掻き立てられます。



出典：国立国会図書館ウェブサイト
Records of the U.S. Strategic Bombing Survey ; Entry 55, Security-Classified Carrier-Based Navy and Marine Corps Aircraft Action Reports, 1944-1945 = 米国戦略爆撃調査団文書 ; 海軍・海兵隊艦載機戦闘報告書
記録写真を加工して作成

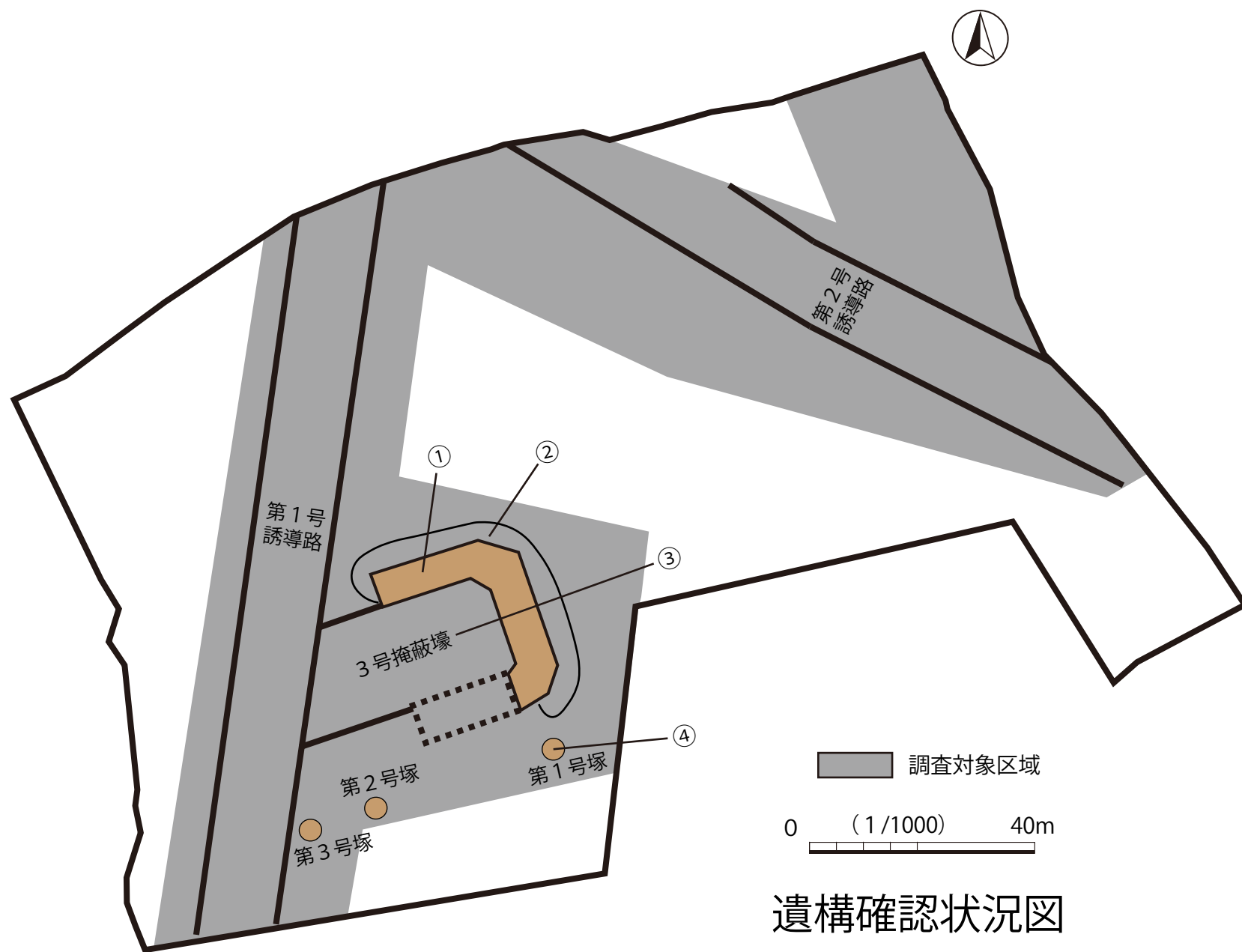
航空作戦報告第 65 号
1945 年 8 月 13 日の作戦報告写真を部分拡大
今回の調査対象となった掩蔽壕と考えられます。飛行機等を隠した格納部に黒い斑点がたくさんあることが分かります。



調査区北部から出土した機銃弾



第 2 号誘導路側溝から出土した金属製品



遺構確認状況図



④ 第1号塚現況

石碑には「延宝」、「庚申年」、「大橋村」という文字が確認できました。江戸時代に流行した月待講にともなう二十三夜供養塔であると考えられます。



① 3号掩蔽壕土層

土質はローム主体土で、周掘部から掘り出した土を積み上げたと考えられます。



② 3号掩蔽壕周掘

土提（盛土）を作るために土を取った部分です。深さや形状は不均一で土堤を囲むように掘られています。



③ 3号掩蔽壕格納部

土提の内側の平らな部分に軍用機や燃料などを隠していました。木の枝や竹などで覆い、上空から見つかりにくくしていたと考えられます。